

【テーマ3:教員の「個別最適な学び」のための受講奨励支援システム

(NDS:Naruto Dialogue System)の開発】

【鳴門教育大学】

モデル開発概要

現場における課題

教員免許更新制の発展的解消に伴い、教師の個別最適・協働的な学びの充実を通じて主体的・対話的で深い学びを実現する、新たな研修制度の実施を目指すことになった。その一環として、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン（令和4年8月31日策定）が示された。対話に基づく受講奨励を円滑にかつ効果的に行うためのシステム開発に対する要望が高い。

モデルの概要

今回のシステムは、この対話による受講奨励を、より効率的、効果的に行えるよう支援するものである。

第一に、徳島県の教員育成指標に基づき、教員自身が自分の強み、弱みを把握し、それを踏まえた研修の受講を効果的に設定

第二に、前述した目標設定をもとに、管理職との対話を踏まえ、学校全体として、学びがより深まるようになるよう設定

第三に、研修受講は、教員個人の知識面での習得だけが目的ではなく、それを現実場面で活用し、その効果を踏まえ、次年度の学びにつなげていくことが求められる。そのためには、その年に取り組んだことをまとめ、期末面談の場で、管理職と対話して、その効果を検証

活用する技術・ツール等

教員目標設定支援システム（開発）

協力委員会 徳島県教育委員会・鳴門市教育委員会

協力企業 株式会社アリスマー（システム開発全般・システム保守管理）

対象人数 鳴門市小中学校教員131名

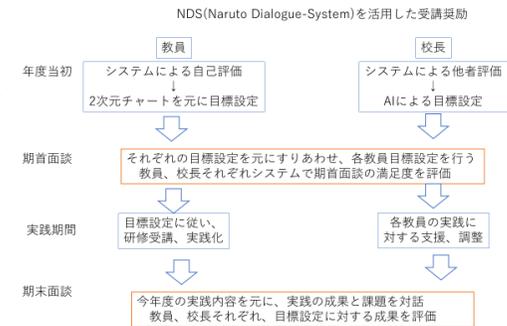
高度化に資する取組

第一段階は、教員が、自身のステージに相当する観点を習得面、活用面から自己評価し、個人的な研修受講の目標を設定する段階である。各教員は、システムにログインし、習得状況及び実践状況に関して、各17項目の自己評価を行う。その結果は自動的に集計され、自己評価の結果が示される。縦軸が実践状況、横軸が習得状況で、それらの結果が2次元チャートの中で表示される。

第二段階は、教員の観点ごとの自己評価を参照しながら、校長としてその教員の力量を他者評価する。教員は、自身の状況を分析し、評価するのに対して、管理職は、学校全体を見渡して、相対的に、その教員の力量を評価するため、傾向が異なる形となる。

それらの結果をもとに、教員と校長による対話を行い、各教員の年間の研修受講の目標を定める段階である。教員と管理職は、教員が設定した目標設定および過去の教員の結果を見ながら、対話により目標設定を行う。教員は、対話を踏まえ、修正した目標設定を行い、対話満足度を評価する。

第三段階は、目標設定に沿って、習得、実践した成果を各教員がまとめ、その成果を期末面談の場において、教員と校長が対話で確認する段階である。今年度の成果を生かし、次年度の研修受講の目標設定およびその実践につなげてもらうことが狙いとなる。



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

研修受講に関し、教員個人の自己評価に基づく目標設定、管理職として期待したい評価に基づく目標設定、過去の入力状況を踏まえたAIに基づく目標設定を比較し、納得感の高い受講目標設定が進み、それにより、学校全体の取り組みの活性化が期待される。